1　自己評価及び外部評価結果

（別紙４）

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2471300422		
法人名	社会福祉法人グリーンセンター福祉会		
事業所名	グループホームグリーントピア名張		
所在地	三重県名張市東田原2745番地		
自己評価作成日	令和5年7月3日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2471300422-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋２丁目１３１
訪問調査日	令和5年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

季節の花が咲き、野菜の収穫もできる畑を見ながら、外気浴や散歩を楽しめる緑に囲まれた環境にあります。季節行事は全員参加ができるように心掛けて計画を立てています。一人一人のお誕生日には、手作りケーキでお祝いをしています。毎月お楽しみとして手作り昼食を提供し、畑でとれた野菜を味わって頂いています。また手作りおやつも一緒に作って楽しまれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

四方を緑に囲まれた静かで穏やかな環境の中、同一法人の経営による老人福祉施設、ケアハウス、居宅介護支援事業所などが隣接されており、地域の老人施設として長く地域に貢献している。コロナ感染予防対策の為、地域との交流を前期までは控えてきたが、グループホーム隣接の地域交流ホールで地域の住民が集まってイベントを行ったり、ホールで講習会を開きたいとの問い合わせが現在事業所に届いたりしており、当期からはコロナ感染状況を把握し、コロナ感染対策を万全に、地域の要望に応え、地域との交流を行っていこうとしている事業所である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の２/３くらいの
			3. 利用者の１/３くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に１回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の２/３くらいが
		○	3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の２/３くらいと
			3. 家族の１/３くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の２/３くらいが
			3. 職員の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の２/３くらいが
			3. 家族等の１/３くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホールに掲示して”笑顔””あいさつ””言葉づかい”を念頭に、実践につなげている。グループホームのスローガンとして、手を添えて心も添えて想いやりを皆で心掛けている。	利用者への声掛けも職員それぞれ工夫して、笑顔で利用者に接している。毎年グループホームのスローガンを職員同士話合い、今年は、”手をそえて、心もそえて思いやるケア”に決定した。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は新型コロナウイルス感染予防対策として、地域や地域の子供たちとの交流は出来ていない。	コロナ感染予防を最優先課題としているため、地域との交流は控えていた。来期は、近隣の感染状況を把握し、時期を見て法人全体での地域住民も参加する運動会の開催を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は、新型コロナウイルス感染予防対策として中止となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防対策として中止となり、2ヶ月に1回書面で状況を報告させて頂いた。R5.6には開催できた。	コロナ感染予防のため書面で開催していたが、今年の６月から市や家族の参加のもと特養、グループホーム合同で開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染予防対策として、運営推進会議の報告は書面でさせて頂いていたが、R5.6には開催できた。必要に応じて連絡を取り助言を頂き、情報はメールで来ている。	利用者の親族との関係で、少し問題点が見つかり苦情が表面化した際に、市に現状を報告しながら相談し、適切なアドバイスを受け、解決に向かったことがあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急やむを得ない事由がある時、家族に『緊急やむを得ない事由による身体拘束に関する説明書』を使用して同意書を頂いている。月1回身体拘束廃止推進委員会と身体拘束適正化委員会で取り組み、各部署に文書で回覧している。	身体拘束廃止委員会を隔月で開催し、また施設内研修として認知症の基礎研修や上野病院の看護師を講師として招いて、認知症等の障害について研修、勉強会を開催し、職員の意識向上に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎月の委員会の中で情報交換している。年間研修計画で高齢者虐待防止研修を実施して意識の向上に努めている。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当者はなく、研修で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には文書と共に十分な説明を行い、要望や意見・疑問点などをお聞きし、ご理解と納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染予防対策として、ガラス越しの面会となっていたが家族の要望をお聞きし、電話連絡の際にも要望をお聞きしている。また、入居者の方との会話の中から業務に役立てている。	家族からの要望もあり、ガラス越しの面会から、フロアでの仕切りを設けた面会に変更したり家族からの意向、要望にはできるだけ応えるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、朝夕の申し送りや連絡ノート等と日常会話の中で意見交換をしてより良くする為の話し合いをしている。	管理者も、現場の支援に関わっており日々職員と会話し、意見交換しながら介護支援に取り組むようにしている。	ベテラン職員が多く、お互い話さなくても意思統一できることもあるが、一度、事業所内で管理者と職員、個別に話し提案を聞く機会を設けられることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得等を給与に反映させている。 また、安全衛生委員会を設置して就業環境の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染予防対策で、リモート研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協議会において、情報交換を通じて自らのケアの向上に努めている。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や入所申請には、十分な話し合いが出来る様に応じて、不安な事や要望をお聞きして良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に話し合いの場を設けて、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中で要望や意見を聞き、複合型施設のメリットを活かして、広い知識と視野で他のサービスも含めて、優先すべき課題やサービスの見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	終日暮らしを共にしているので信頼関係はできている。一人一人が心穏やかに生活できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ガラス越しの面会や電話連絡の際に日々の様子をお伝えしている。何かあれば都度電話連絡をして、その時に要望が無いかお聞きしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防対策でガラス越しの面会を実施しているが、少なくなり外出の支援も出来ない状態が続いている。	サッカーの先生だった利用者には、DVDでサッカーの試合を観戦し落ち着いてもらったり、音楽をフロアで流したり個別で対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談笑しやすい場所やくつろぎやすい場所を提供するための環境作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当者はないが、相談に応じる体制は出来ている。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の申し送りや連絡ノートの活用で情報を共有し意向に沿った支援をしている。	言葉でのコミュニケーションが取れない利用者には表情を見ながら声掛けし、ＤＶＤを見ながら職員と一緒に童謡を歌ったり、利用者がやりたいことをしてもらったりできるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には本人・家族・相談員より情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子観察や毎日の申し送りなどで職員間の情報の共有を図っている。また、看護師との連携を図り、一人一人にあった支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、本人の希望や家族の要望をお聞きして担当者の意見を聞いている。本人の状態や課題・ケアについて他の職員との話し合いの場を設けている。担当者の意見を参考にして3ヶ月に1回のモニタリングを実施している。	本人、家族の意向を聞き、担当職員から現状の報告を受けて、主治医の意見を参考に状態の変化がなければ、半年ごとにケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を個人介護記録に記録し、個人健康管理表にはバイタル測定や食事量や排泄を記録して情報の共有が出来る様になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに合った支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防対策で、外部ボランティア・園芸福祉・地域市民センターの行事の参加は中止となっている。散髪は継続して利用している。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回は嘱託医の訪問診療を受け、健康管理が出来ている。また、個々の健康状態に応じて専門医の受診も支援している。	利用者は、月１回協力医の訪問診療を受けており、従前のかかりつけ医や専門医に受診の際は、職員が通院介助し適切な治療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に報告・相談をして健康管理と医療的な処置を行っている。また、看護師と連携を図り、24時間体制を整え緊急時に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者情報を病院に持参して家族を交えて情報を交換している。退院時には、退院前カンファレンスに参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、本人や家族の希望を聞かせて頂き、看取りの指針を定め、職員・主治医・看護師・協力機関と連携を取りながら支援することとなっている。	入居時に看取りの方針を伝え、本人、家族の同意を得て協力医の指示のもと看取り支援を行っている。看取りのマニュアルも作成し職員に向けて看取りの研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故予防対策委員会を中心に事故の予防・対応を職員に周知している。緊急時には24時間体制で看護師と連携が取れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を日中想定と夜間想定で実施している。消防署と連携して助言を受けながら、訓練の充実を図っている。地域の福祉避難場所にもなっている。	年２回防災訓練、夜間想定の訓練を行っている。地域の福祉避難所になっているため、備蓄も確保し災害時の職員の役割分担を決め災害に備えている。	

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の想いを大切に個々に合った言葉がけを心がけ、そのひとの目線で話をしている。おじいちゃん・おばあちゃんではなく、さん付けでお呼びし、馴れ合いになってはいけない。	法人として職員にアンケートを行い、言葉使いや声掛けに見直すところがないか確認したり、なれ合いにならないよう利用者の目線で声掛けするよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や想いを傾聴して、自己決定が出来るように働きかけている。意思決定が困難な方の場合でも言葉がけをして反応を確かめている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合による介護ではないので、一人一人の想いに沿った支援をしている。（起床・就寝・散歩・外気浴等）		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みのある衣類や小物を持参されて、その人らしい整容が出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いやテーブル拭きなど出来る事をして頂いている。誕生日には誕生日ケーキを作っている。また、月1回は手作りおやつや手作り昼食を提供して楽しんで頂いている。	食前には、テーブルを拭いてくれる利用者もおり、誕生日には、職員手作りのケーキでお祝いをしたり、月に１度の手作り昼食の日には、手巻き寿司など楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況に応じて、食事形態を考慮し提供している。食事摂取量の記録もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、マウスウォッシュ・歯磨き・口腔スポンジ・口腔ケアウェッティーなど本人の状態に合った方法で支援している。		

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導や行動・仕草の観察で誘導のタイミングを考慮し支援している。	できるだけトイレで排泄していただくよう支援しており、居室にトイレが設置されているため、夜間もトイレ誘導で支援している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療との連携で排便コントロールをしている。毎朝の乳製品の飲用や身体を動かす機会を作り働きかけている。オムツの方でも、毎日1回はトイレ排泄する方と2日に１回トイレ排泄の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の体調を考慮して看護師と連携を取り、入浴の支援をしている。利用者のADL(日常生活動作)に応じて、機械浴も利用できるがコロナ禍で現在は利用出来ていない。	週２回午前中に看護師の体調確認後に、入浴している。入浴拒否の利用者には、足浴を勧め、気分が良くなった後に、入浴してもらうなど工夫して入浴支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室のベッドやイス、フロアーのソファーなど好みの場所で休息出来るように配置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は看護師が管理している。薬情はファイルに綴じており、内服薬表や薬の効能はキッチンに貼って共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	計算問題や編み物が好きな人、洗濯物をたたんでくれる人、歌が好きな人、サッカー観戦が好きな人等その都度支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防対策で外出支援は中止となっている。利用者の希望をお聞きして、テイクアウトも利用した。毎日の外気浴で花や夏野菜の収穫もしている。	コロナ感染予防対策のため、戸外に出かけることはできていない。ただ毎日外気浴を行っており、当期はコロナ感染状況を見ながら、利用者の希望を聞きながら花見やドライブを計画している。	

自己	外部	項　　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金はお預かりしているが、支払いの困難な方はほぼ全員である。週に2回の移動スーパーでは、欲しいものは手に取ることができる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい希望の時は、家族が電話に出やすい時間帯にかけさせて頂いている。手紙やはがきを書かれる方は、一緒にポストに投函しに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑に囲まれた環境にあり、室内は明るく外の景色を見る事が出来る。季節の花など季節感を取り入れる工夫をしている。	利用者が日中過ごすリビングは、採光性が良く明るく、リビングの窓からは、中庭の草花や緑多い森を見ることができ、四季を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやイスをくつろげるように配置している。季節の花も飾っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を置いたり、写真や好みの置物を飾られている。安全面も考慮し、地震対策もしている。	コロナ感染予防対策の為、一人の利用者の居室を見ることができた。イベントでの利用者の笑顔の写真が壁に飾られ、明るく静かに過ごせる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの環境で移動しやすく、安全に生活できる場となっている。		